（第２号様式）（用紙日本工業規格 A3 横長型）

神奈川県教育委員会教育長　殿

提出日：令和　５年　４月　18 日

学校名：　県立えびな支援学校

令５年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （月日実施）	総合評価（　月　日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	○「自立と社会参加」をめざし、小学部から高等部まで達成感の持てる授業を実践する。	(1)一人ひとりのニーズにあわせた教育活動が可能になる教育課程編成に取り組む。 (2)ICT機器を活用した授業づくりを推進し、評価の観点を明確にして、生徒が主体的に活動できる授業実践を行う。	(1)「教科等を合わせた指導」について、どの教科を合わせ、何をねらっているのかを明確にできるように整理する。 (2)ICT 機器を活用し、児童・生徒が主体的に活動できる授業実践を行う。	(1)「教科等を合わせた指導」について、どの教科を合わせ、何をねらっているのかを明確にできるように整理することができたか。 (2)ICT 機器を活用し、児童・生徒が主体的に活動できる授業実践を行うことができたか。			(保護者アンケート④)		
2	児童・ 生徒指導・ 支援	○一人ひとりの教育的ニーズについて、アセスメント等を充実させ、実態把握を行いそれを「個別教育計画」に反映させ、授業を実践する。	(1)専門職等と連携するシステムづくりを進め、アセスメントを充実させる。 (2)一人ひとりの教育的ニーズについての情報共有を図るしくみを工夫し、授業実践につなげていく。	(1)専門職等を活用するシステムを周知し、ケーススタディに専門職等が積極的に参加するなど多角的にアセスメントする。 (2)一人ひとりの教育的ニーズをとらえ、各学部の研究をとおして、授業実践に活かす。	(1)専門職等を活用しながら、多角的にアセスメントすることができたか。 (2)子どもの一人ひとり教育的ニーズをとらえることができたか。研究を授業実践に活かすことができたか。			(保護者アンケート⑤⑥⑲)		
3	進路指導・ 支援	○地域の関係機関との連携を築き、児童・生徒が地域で豊かに暮らし、働くことにつながる教育活動を展開する。	(1)地域で豊かに暮らし、働くことにつながるよう、小中を含めた広い意味でキャリア教育を進める。 (2)一人ひとりの課題に合わせた作業学習について、地域との連携も含めて展開する。 (3)アフターフォローについて、情報発信と関係機関との連携をさらにすすめ、定着支援の充実を図る。	(1)児童・生徒の社会的・職業的自立を目指し、小中の教員向けのキャリア教育に関する研修等を設定する。 (2)地域の人材や資源を活用した作業を通して生徒一人ひとりの課題解決に取り組んでいく。 (3)進路先への訪問を基本に関係機関との連携を深めつつ、卒後の定着支援体制に向けた情報発信を行う。	(1)キャリア教育を進める中で小中の教員へ向けて研修等を通して情報発信をすることができたか。 (2)地域との連携をしながら生徒の働く意識を高める活動や社会的自立に必要な事柄を学ぶ機会を作ることができたか。 (3)支援機関との連携を通し、卒業生やそれぞれの進路先に合わせた支援体制を構築することができたか。			(保護者アンケート⑦⑧)		
4	地域等との 協働	○地域の支援教育のランドマークとしての役割を果たしつつ、インクルーシブ	(1)県指定の研究を活用し、インクルーシブな意識の醸成を図る	(1)人的交流等、本校のインクルーシブ教育の実践について教職員や、保護者、地域に発信	(1)本校のインクルーシブ教育の実践を発信し、理解を深めることができたか。	④		(保護者アンケート⑨⑩⑪)		

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （月日実施）	総合評価（　月　日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		教育を推進する。	(2)居住地交流を地域とつながり共に学びあう機会として充実させる。 (3)中央農業高等学校との交流を全学部の交流として、双方ともに学びあえる活動を行う。 (4)学校間交流を年間指導計画に位置付け、交流及び共同学習を系統立てて行う。	し、理解を深める。 (2)居住地交流について保護者、地域の学校に周知し、共に学ぶ取組を推進する。 (3)中央農業高等学校と継続して共同学習を行い、共に学び合える活動にする。 (4)小学部は中新田小学校との交流を年間指導計画に位置付け行う。中学部は地域の中学校との交流を模索する。(3)と合わせ本校の交流学習の系統性をまとめる。	(2)居住地交流について周知を図り、共に学ぶ取組を推進することができたか。 (3)継続した共同学習が行えたか。「福祉と農業」終了後の新たな活動について、検討実施することができたか。 (4) 各学部の交流及び共同学習の段階的な実践状況をまとめることができたか。				
5	学校管理 学校運営	○学校からの「情報発信力」を高める取組を行っていく。 ○不祥事防止については、不祥事ゼロをめざし取組みをすすめる。 ○安心で安全な教育環境の整備に取り組む。 ○児童・生徒と向き合う時間を確保するために、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。	(1)発信したい内容、発信する方法を工夫して情報発信し本校やインクルーシブ教育推進の取組についての理解を進める。 (1)教職員一人ひとりが「当事者意識」や「自覚と誇り」を持ち、不祥事防止への意識を高める。 (1)安全な環境づくりと防災教育に取り組み、防災意識と災害への対応能力の向上を図る。 (1)教員の働き方改革を推進するため、校務のスリム化、効率化に取り組む	(1)交流の情報や校内の取組など、発信する情報や発信方法、発信先を整理して情報発信を行い、本校やインクルーシブ教育推進の取組についての理解を進める。 (1)不祥事防止会議等を定期的に行うことで、不祥事防止への注意喚起をし、職員間で互いの気づきを共有する。 (1)実際に即した防災訓練の実施と検証を進める。段階的な防災教育の整理を行い、防災意識を高める。 (1)計画段階で例年にこだわらない見直しをおこない、業務のスリム化、効率化を図る。ノー残業デーや施設管理員の施錠時間の周知をおこない、計画的に業務を遂行する。	(1)発信する情報や発信方法、発信先を整理して情報発信を行い、本校やインクルーシブ教育推進の取組についての理解を進められたか。 (1)不祥事防止会議等を定期的に行い、不祥事防止への注意喚起ができたか。職員間で互いの気づきを共有できたか。 (1)防災訓練で実際の災害時を意識し、対応することができたか。段階的な防災教育について整理し、校内で共有できたか。 (1)常に業務を見直し、業務のスリム化、効率化を図ることができたか。計画的な業務の遂行により、施錠時間を徹底できたか。			(保護者アンケート⑬⑭⑮⑯)		